

# ご挨拶

本展では、所謂、書の芸術家である書家の書ではなく、様々な分野で一流人として活躍した方々の書を展示いたしました。

今や時代は産業革命と言える程にIT技術が進化を遂げ、パソコンで書（字）を書き、デザインも自由自在にできる時代を迎えていますが、立派な文言に感銘は受けることはあっても、その書から、書き手の魂のようなもの、人柄を感じられないのは、科学では証明のしようのない不思議なことだと思います。

「書」というと書道を連想し、何かしきたりのようなもの、芸術的なものを思い浮かべますが、書の定義は「小学館の大辞泉」では以下のように書いてあります。

- 1、 文字を書き記す。毛筆で文字を書くこと。また、その書き方、書道。
- 2、 書かれた文字。一定の書き方で書いた文字。筆跡。
- 3、 事柄を書きつけたもの。文書や手紙、書簡。
- 4、 本、書物。
- 5、 書経。

書は書き手の人柄や時代背景、思想を感じられるものもあり、同一人であっても、書いた時の年齢や感情でさらに変化します。

書の面白みは100人いれば100通りで、一つとして同じものが無いことではないでしょうか。本展では、書＝芸術という観点だけでなく、書＝人という観点でもご高覧いただきたく存じます。

時はまさに若芽吹き、花咲く春でございます。

本展をご覧いただいた後、色紙、短冊等に、春の一日を句にでもしていただけたら「書を愛でる」の企画者としては望外の喜びでございます。

平成26年4月吉日  
公益財団法人 中野邸美術館  
代表理事 中野重孝